

古代アメリカ学会 第1回東日本部会研究懇談会のお知らせ

前回の総会でご承認いただきましたように、今年度よりあらたに学会主催の研究懇談会（東日本部会、西日本部会）を企画・開催いたします。

つきましては、第1回東日本部会研究懇談会を以下の要領で開催します。どうかふるってご参加下さい。また、非会員の方も参加できますので、関心のある方にはお声かけ下さい。参加の事前登録は必要ありません。

なお、西日本部会研究懇談会も現在企画中です。詳細が決まり次第、会員の皆様にはご連絡を申し上げます。

〔研究懇談会概要〕

今回は「古代アメリカ GIS 考古学 ルートと地域間関係」というテーマのもと、2組の発表者を迎え、GIS（地理情報システム）を援用したルートの分析を含めた、交易・地域間交流に関する研究成果を発表していただきます。研究発表のあとはディスカッションの時間を設けます。

なお開催の2週間前に、古代アメリカ学会ホームページに発表要旨を掲載する予定です

発表1. 嘉幡茂（愛知県立大学大学院国際文化研究科客員共同研究員）

「テオティワカンの黒曜石獲得戦略における功罪：GISとXRFを基にした考察」

【概要】

古代メソアメリカ文明圏の中で覇権国家へとテオティワカン成熟させた一因は、その近郊に位置する黒曜石原産地（オトゥンバとパチューカ）を支配下におき、この資源獲得・加工・流通における一元管理システムを確立させたことにある。しかし、それは同時に崩壊へと導く要因を内包していた。

本発表では、上記のシナリオをArcGIS（ESRI社）とSurfer（Golden Software社）プログラムを用いたGIS分析、そして蛍光X線分析（XRF）データを通して解説する。

【キーワード】テオティワカン、黒曜石、交易システム、最適ルート算出、空間分析、XRF

発表2. 山本睦（埼玉大学非常勤講師）・伊藤裕子（埼玉大学修士修了）

「ペルー北部～エクアドル南部における形成期の移動ルートと地域間交流：GISによる加重コストルート分析を用いて」

【概要】

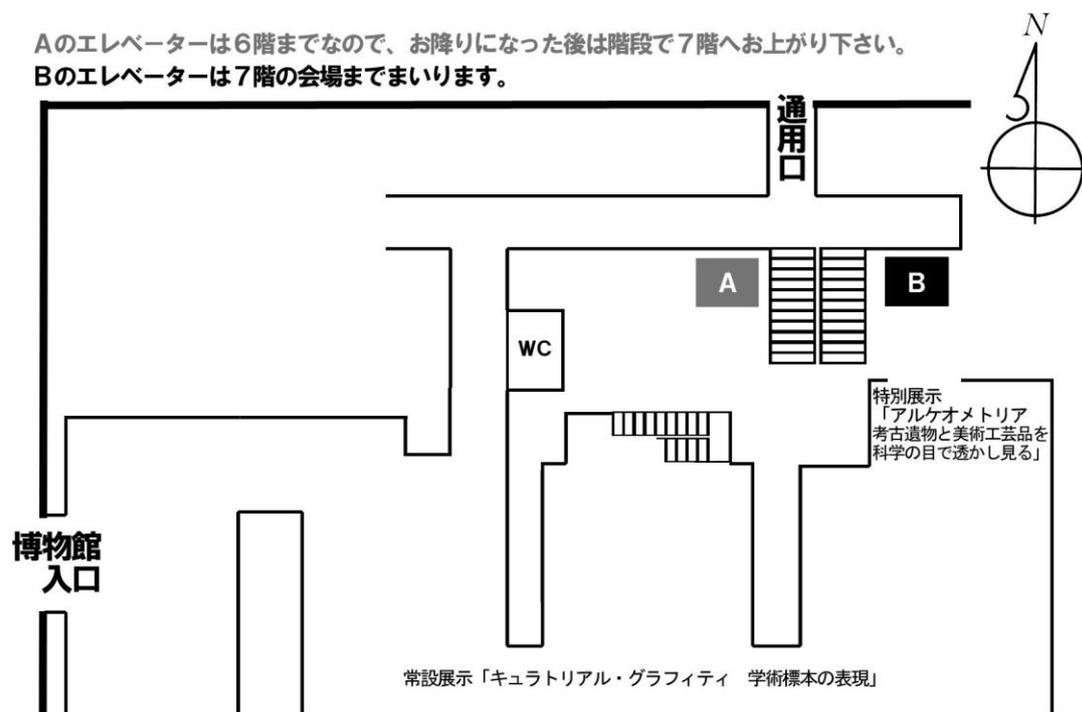
地域間交流は、アンデス形成期（紀元前2500）における主要研究テーマの1つであり、これまでに社会変化と絡めた様々な議論が繰り返されてきた。ただし、先行研究の中で地域間交流は、主として考古遺物の様式的類似性のみに基づいて論じられてきた。しかし、実際に交流を行ったのは、当該社会の成員である。そのため、地域間交流を論じる際には行為者である人々の移動も考慮することが不可欠である。また、実世界の人々の移動を分析対象としてモデル化するにあたっては、単に地形のみならず、移動手段や気候など、様々な条件を加味する必要がある。

そこで、本発表では、GISによる加重コストルートの分析を通じて、形成期の中央アンデス北部と北部アンデス南部における地域間主要ルートについて述べる。そして、上記のルート分析と従来の考古遺物の比較検討の2つの視点を通じて、形成期の地域間交流について論じる。

【日時】2012年5月19日（土） 14:00より

- ・発表1 14:00～14:50（質疑応答10分）
- ・発表2 15:00～15:50（質疑応答10分）
- ・小休憩ののちディスカッション 16:00～（16:45終了予定）

【会場】：東京大学本郷キャンパス 総合研究博物館7階ミュージズホール
<http://www.um.u-tokyo.ac.jp/information/map.html>
下図をご参照になり、会場までは館内エレベーターをご利用下さい。



館内通路・展示場略図

皆様のご参加をお待ちしております。

〔連絡先〕：

- ・ 東日本部会幹事・鶴見英成（東京大学総合研究博物館） et*um.u-tokyo.ac.jp（*を@に換えて下さい）
- ・ 古代アメリカ学会事務局 jssaa@sa.rwx.jp